荒波を超えて独り立ちする資質・能力を目指した学習指導方法の在り方
～主体的・対話的で深い学びを視点とした日常的な授業改善を通して～

十島村立小宝島小中学校

1　研究のねらい

本校では，２年間にわたり児童生徒の実態や学校が抱える教育課題から,「育成すべき資質･能力」を焦点化し，全職員で研修に取り組み，児童生徒の資質･能力を高めることに努めてきた。しかし，一方次のような課題も明らかになった。

第一に，本校の児童は既習事項や友達の考えたことを生かしながら，新たな課題に主体的に取り組むという姿勢にまで至っていないということ。第二に，学年相応の基礎的・基本的な知識や技能が身に付いていない児童生徒に対する学習支援の方法が明確になっていないということである。

そこで，本年度は主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善をベースに上述した課題を解決するためには，どのような方策があるのか研究することとした。

2　研究の概要

授業改善を図るためには，教師の授業に対する意識（授業観）を変えなければ,「主体的・対話的で深い学び」という言葉だけが先行し，本質的な授業改善には至らない。だからこそ，学校の組織力を生かした PDCA サイクルを確立し，日常的な授業改善を実践し，積み上げることで教師の学習指導力を高めることが重要である。

また，基礎的・基本的な知識や技能が身に付いていない児童生徒は，自己有用感が低い傾向が全国学力・学習状況調査等の結果から判断できる。本校では，人権意識を大切にしながら自己有用感を高める指導を行うことで，自ら学び続ける子どもを育成できるのではないかと考える。そこで，本テーマ研究を設定し，全職員一人一人が，自分のこととして考え，研究を進めることとした。

3　研究の内容

（１）日常的な授業改善の研究

ア 資質・能力を高める日常的な質の高い授業づくり

（ア）授業充実の視点～「質の高い授業」づくりに向けて

（イ）「まとめ」と「めあて」の整合性について

（ウ）「問い」の連続が生まれる発問の工夫

（２）個に応じた成果のある資質・能力の育成に向けての研究

ア 自己有用感を高める指導方法改善

イ 資質・能力を高める集団づくり・自主性を高める個人内評価

資料　授業参観カード

授業充実カード　　記入者（　　）

授業充実の３ポイント～「質の高い授業」づくりに向けて～

授業充実の視点１
○ 学習内容への「興味・関心がそそられる魅力ある授業」づくり
○ 友達や他者と対話したり討論したり，「発見や感動がある授業」づくり
○ 思考したり，表現したりする場面が設定され，「考えを深め合える授業」づくり
○ 友達や他者との「連帯感を深め，学習過程をメタ認知できる授業」づくり

授業充実の視点２
【ポイント１　目標の明確化　　ポイント２　山場の工夫　　ポイント３　確かな見届け】

項目	課題づくり及び興味・関心が生まれる視点及び条件について		本時の授業手法 該当する番所に○印をつける
目標の明確化（「？」を生み出しているか	1	驚き・意外性・矛盾	
	2	日常生活との関連（身近な生活と関わるもの）	
	3	五感をとおして（見る・聞く・さわる等）	
	4	感動・イメージ化（実物，模型，映像等）	
	5	体験的活動（ゲームや活動等）	
	6	教科（他教科）との関連	
	7	適度な難易度・困難さ（挑戦心をくすぐるもの）	
項目	**思考を深める活動の充実・工夫について**		**本時の授業手法 該当する番所に○印をつける**
山場の工夫 思考を深める	1	自力解決による最初の考えを可視化（見る・聞く・考える・書く等）	
	2	考えの交流（分からない・間違い・失敗等を大切にしている）	
	3	言語活動（記録・要約・説明・論述・討論等）	
	4	教師の聴き方，発問（リヴォイシング，ゆさぶり，切り返し），言葉かけ等	
	5	机間指導（子どもの学習状況の把握及びヒント等）	
	6	学習形態（コの字型，ペア，グループ等）	
	7	板書（子どもの考えのつながりや対立等がわかる板書）	
項目	**「習熟」を図る視点及び工夫について**		**本時の授業手法 該当する番所に○印をつける**
確かめ見届け（「！」で締める	1	分かったこと・知ったこと等の可視化	
	○	学習課題・めあてに対応して書かせる。	
	○	自分の考えがどのように変容したのか書かせる。	
	○	条件や制限に応じて書かせる。	
	2	習熟１（子ども同士の教え合い）	
	3	習熟２（かごしまwebシステム問題，全国学力・学習状況調査，高校入試問題等）	
	4	振り返り（自己評価・相互評価）	

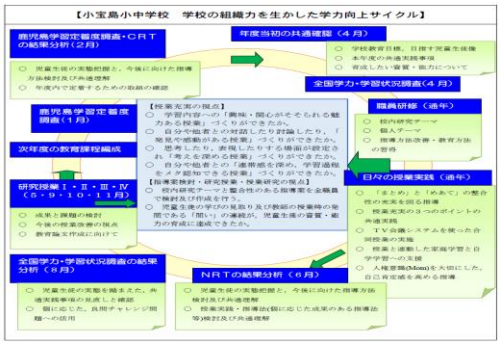
4　研究の実際

（１）チーム学校として組織マネジメントを生かした指導方法改善に向けての実践

ア　学校の組織力を生かした学力向上サイクル

日常的に教師が学年や教科を超えて組織的に学力向上のサイクルを意識して取り組むよう本年度は，学校全体で取り組む学力向上サイルクルを作成し，その意義を全職員で共有した。また，取組の進捗状況を定期的に点検し，課題については，新たな改善策を講じる PDCA サイクルを円滑に推進することで，教師の授業改善に向けての意識改革を日常的に行った。

資料　学校の組織力を生かした学力向上サイクル



イ　「校内研修」と「授業研究」の方策とプロセスの明確化

写真　授業研究

「校内研修」や「授業研究」で学校のチーム力を高めるために，研修担当者に一任した依存型の研修体制を改善した。授業を伴う研修を年間あるいは一定の期間の「どこに」，「どのような」方法で位置付けるかなど，「校内研修」や「授業研究」に関する取組の具体的な方策とプロセスを明確にすると同時にチームの一員として「校内研修」や「授業研究」への参画意識を高めた。また，日常のＯＪＴの推進を図ることで，教職員一人一人の指導技術の向上を促した。

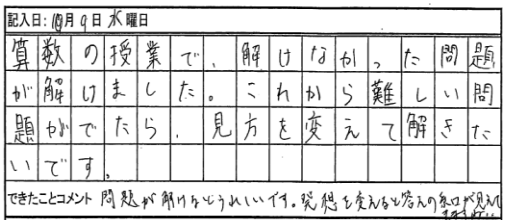
（２）個に応じた成果のある資質・能力の育成に向けての実践

ア　自己有用感を高める指導方法改善

人権意識を大切にした，自尊感情を高める指導等の実践を行った。具体的には，どの子にも，①自己存在感を与えること。②共感的な人間関係を育てること。③自己決定の場や機会を与えることの３点を意識しながら日常的に授業改善の一つの取組として指導方法の改善を行った。このことによって，教師と児童生徒が互いに高め合える集団づくりを実践することが可能となり，個人・集団における自主的・実践的な態度を育成し，「他者と関わりながら，課題の解決に向かう『問い』が生まれる授業」を更に充実させることにつながった。

イ　「できたことノート」作成

資料　できたことノート


記入日：10月9日 木曜日

算数の授業で、解けなかった問題が解けました。これから難しい問題がでたら、見方を変えて解きたいです。

できたことコメント　問題が解けるようれいいです。発想を変えると答えの糸口が見えてきます。

資質・能力の育成についての視点の一つである「学びに向かう力，人間性等」の資質・能力を高めるにあたり児童生徒に，個人内評価を行った。具体的には，児童生徒に，自ら考えできたことをノートにまとめる「できたことノート」を作成した。そのことで，観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童生徒の一人一人のよい点や可能性，進歩の状況について全職員と共に，共通理解を図り，児童生徒の個の実態把握を行いながら授業改善にもつなげた。

5　研究のまとめ

（１）研究の成果

学校の組織力を生かしたPDCAサイクルの確立を行ったことは，日常的な授業改善を全職員で実践することにつながった。その成果の一つとして，漠然と授業づくりを行ってきた職員が，質の高い授業づくりに向けて，それぞれが授業づくりのポイントをもって，日常的に，質の高い授業づくりを実践するようになった。また，職員からの自己有用感の指導及び児童生徒の個人内評価は，児童生徒一人一人の自信につなげ，深く学ぼうとする姿勢につなげることができた。

（２）今後の課題

主体的・対話的で深い学びを視点とした授業づくりを実践するにあたり対話的な授業づくりは今後の課題となった。また，教師が，児童生徒の実態に応じ，授業の展開に応じた，「問い」の連続を生み出す授業づくりをできることは，教師の資質・能力の高さにつながる。より確実に，質の高い授業づくりを日常的に取り組むためには，教師の資質・能力の高さが課題となった。

6　今後の取組

日常的な授業改善を今後も行うにあたり，学校として組織マネジメントを生かした指導方法改善を，ＰＤＣＡサイクルのもと行っていきたい。また，教師の資質・能力の向上をＯＪＴを推進しながら，対話的な活動をより高めるため，教師による「問い」の連続が生まれる授業を実践していきたい。最後に，荒波を超えて１５の島立ちに向けて，全教育活動を通して児童生徒の資質・能力を育成する，指導方法を今後も更に検証及び研究し，チーム学校として取り組んでいきたい。